



にんげん どうぶつ
人間はどうして動物なの

にんげん そせん ちか どうぶつ
人間の祖先はサルに近い動物

人間と人間にた生き物の化石から、人間はサルの仲間が祖先だということがわかってきました。つまり、サルに近い動物から進化してきたのが人間だというわけですから、人間は動物なのです。そのほか、人間の脳や心臓、骨格などの体のしくみのほとんどが動物と同じだということもわかってきました。

どうぶつ おお
動物と大きくちがうこと

ほかの動物と大きくちがうことは、大脳皮質が異常に大きいということです。脳のこの部分で、物事を深く考え、原因と結果などを結びつけて考えることができるのです。

にんげん そせん しんがるん
人間の祖先はサルにいたという進化論

日本では、人間の祖先はサルに近い動物であったということは、学校でも教えられますが、ほかの国では今でも学校で教えることが、禁止されている所もあります。キリスト教では、人間は神が作ったと教えています。進化論はこの教えに反するとして、認められていなかったのです。しかし、1996年、ローマ法王庁というキリスト教で最も権威のあるところが、進化論を認めました。体の祖先はサルに近い動物でも、精神は神が作ったとしています。

進化論を考えついたダーウィンが、当時、この考えを発表できなかった話は有名です。人間の祖先がサルに近い動物であるなどと言えば、とんでもない攻撃を受けるからです。

じんるい そせん
人類の祖先

人間が動物であることは、生物学上でははっきりしていることです。人類といわれる動物が生まれたのは、今から約450万年ほど前、東アフリカであるらしいという説が最も有力です。(監修・今泉 忠明)

参考記事：ローマ法王庁と進化論の新聞記事(1996年(h8)10月23日)創世記の「神がアダムと

